

# 二つ橋スカイツリーレター No.27

二つ橋高等特別支援学校 連携支援担当

H24.11.12



11月も中旬、冬の足音とともに、寒さも身にしみてくるようになりました。この季節、体調を崩さないように注意したいですね。

今回は、11月3日（土・祝）に行われた瀬谷区自立支援協議会主催の「**当事者が語る発達障害の世界**」の講演会に参加してきましたので、簡単ではありますが、ご紹介します。

サブタイトル「～ちょっと違ってますが、何か!?!～」

## 第1部 笹森理絵さんのご講演

ご自身に発達障害がありますが、ご家庭もあり、子育て中のお母さん。実は、3人のお子さんにも同様の障害があり、公私ともに大忙しの毎日。ご自身の生活で困っていることは、様々な情報を見たり聞いたりする中で、その場にあった必要な情報の選択が難しいこと。“臨機応変”や“適当”という曖昧な内容は、どうしていいのかわからなくなってしまおうということです。

また、全体の様子を（見て）見ながら行動するというのも苦手で、ある部分にこだわってしまう場面もあるとか。動植物や風景なども一部分の模様に着られることがあり、それが本当に大好きとのことです。実体験の中からこんな例を出されていました。

「私、これとっても気に入っています。  
何かわかりますか？」



\* 答えは文末にあります

笹森さんは、こんなご経験が沢山あり、なかなか話の輪についていくのが大変と話していました。また感覚過敏なところもあり、ご苦労されているようです。視覚、味覚、聴覚、触覚、重力不安など日常生活に支障が出てしまうこともたびたび・我慢も勉強と割り切って取り組んでいるんですと、毎日の奮闘記を話されていました。

## 第2部 近畿情報高等専修学校の上好功先生のご講演

知的障害や発達障害のある生徒さんたちが通っている私立学校の先生。校内での生徒さんたちの様子や社会自立に向けた学習や実習の取り組みが話題の中心でした。その中から“身だしなみ”“あいさつ”“言葉づかい”の大切さや“ほう・れん・そう”の徹底をしていますとのこと。二つ橋の取り組みと同じところが多くありました。

まとめとして

『「失敗したらもう終わり」と思いこんでいる学生が多いので、支援者は「失敗してもやり直すことができる」ということを学ばせてほしい。そして、電動機付自転車のように、必要な時に必要なアシストをしてくれる人であることを期待します。』と締めくくっていました。

答「シマウマの毛並みの模様」